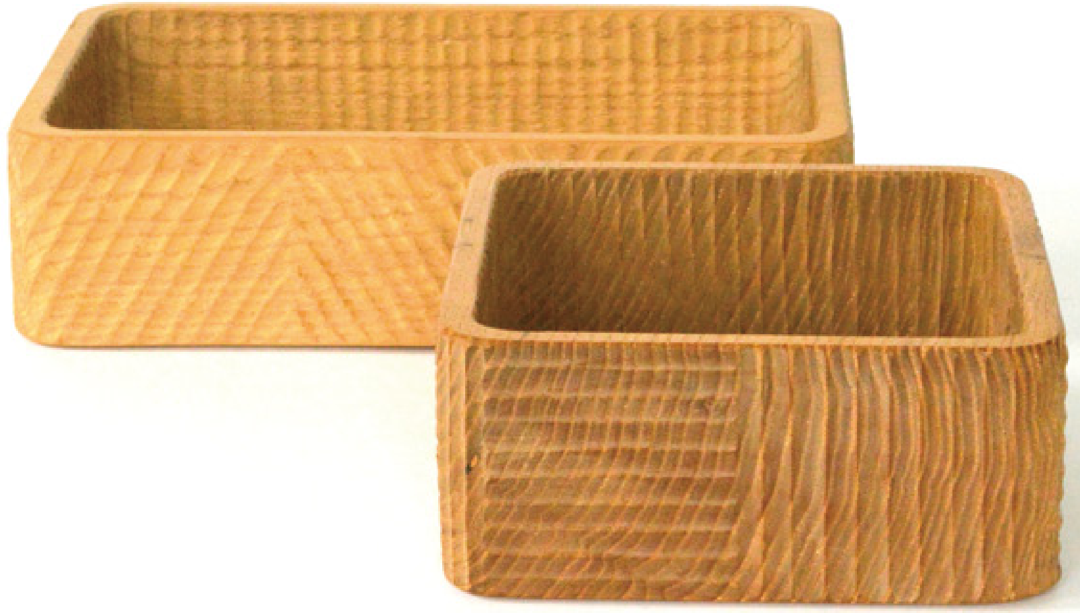
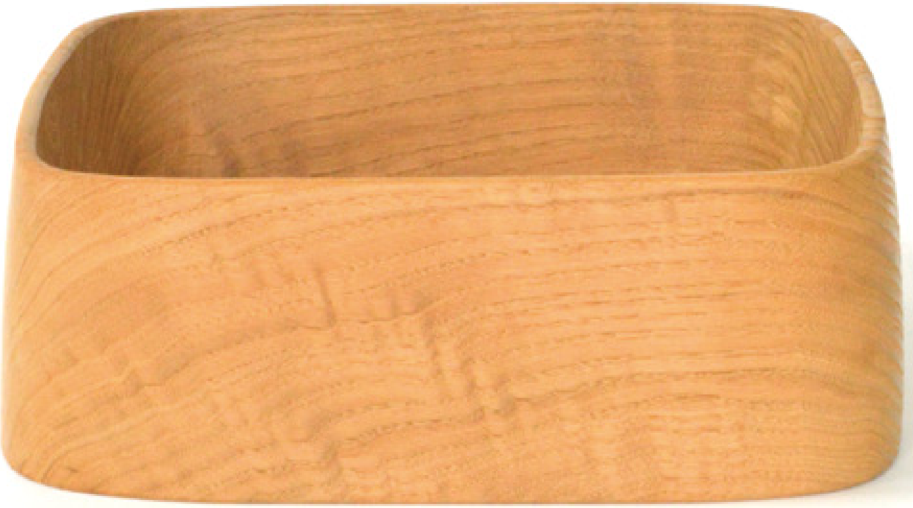
佃眞吾展

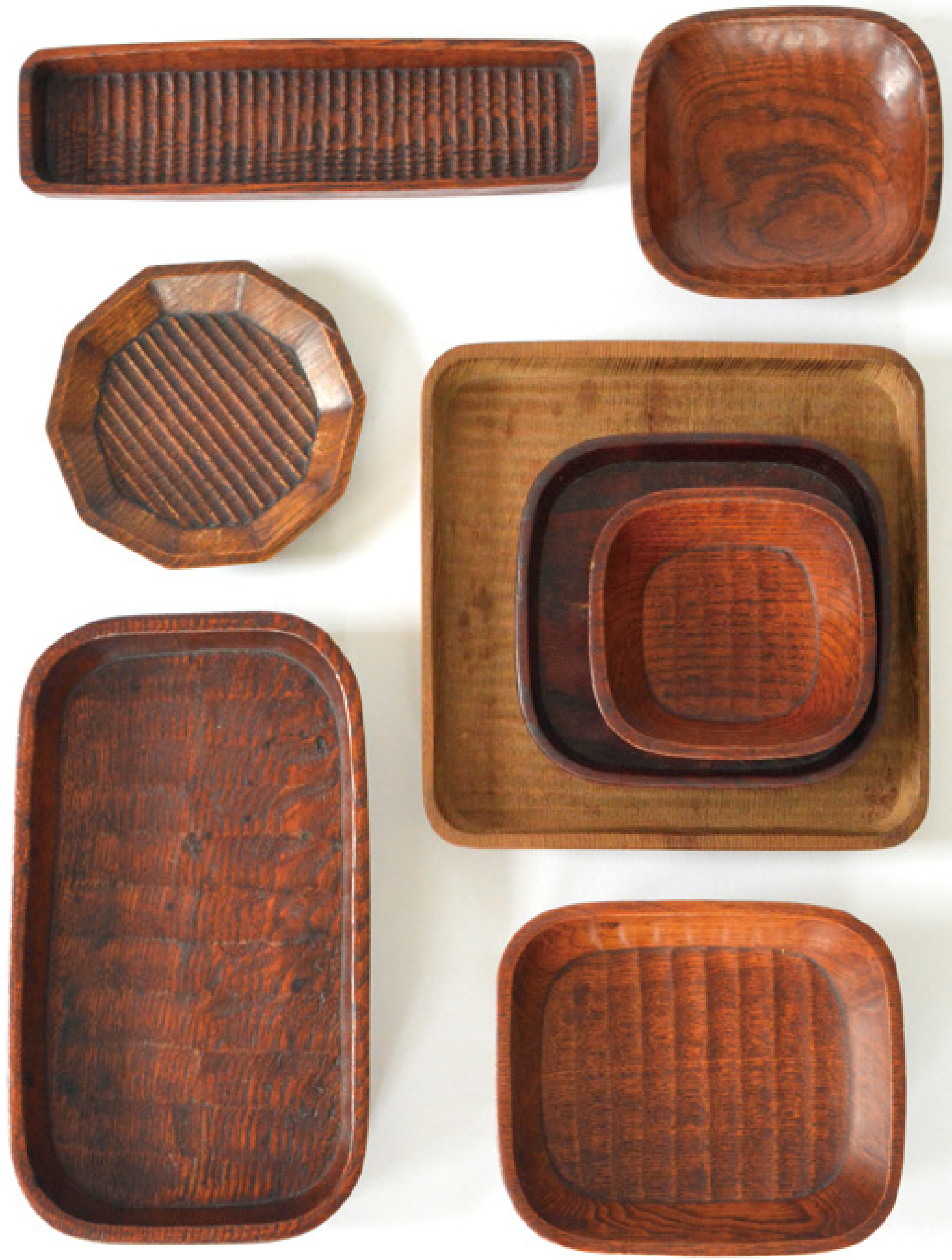
我谷木器・林竜人さんを偲ぶ



佃 眞吾 Mokki Basket（我谷煙草盆木器）
手前：幅 165mm 奥行 168mm 高さ 73mm
奥側：幅 268mm 奥行 168mm 高さ 70mm



佃 眞吾 Mokki Box（我谷升型木器）
幅 282mm 奥行 245mm 高さ 98mm



林竜人さんが製作した我谷盆や皿
会期中店内にてご覧頂けます（非売品）

2016. 7. 9 SAT - 18 MON

GALLERY
うつわノート

POST CARD

料金後納
ゆうメール

佃眞吾（つくだしんご）展　我谷木器（わがたもっき）・林竜人（はやしたつんど）さんを偲（しの）ぶ

二〇一六年 七月九日（土）〜十八日（月・祝）　会期中無休
営業時間　十一時〜十八時　　作家在廊日　七月九日（土）

佃眞吾さんは京都市で木漆器を制作しています。15 年間の職人時代を経て独立し、木工全般の一貫した仕事を行う基礎のしっかりした作家として定評があります。軽やかな木工の器が全盛の時代にあって、佃さんは民藝や骨董の知識をを踏まえながら、あらためて様式的な美を現代の暮らしと繋ぐ作り手です。

佃さんが独立当初から手掛けている代表作に、我谷盆があります。それは昭和 30 年代にダム工事で湖底に沈んだ石川県我谷村で、江戸から明治につくられた栗材を丸ノミで刳り抜いた民衆の器です。人間国宝の黒田辰秋さんもその魅力に早くから注目し「強い地方色と独創的な手法による器形。天衣無縫の作品である。」と述べておられます。その素朴な姿に魅せられる現代の作家も多く、今あらためてその美しさが見直されています。

明治末期に一度立ち消えた我谷盆の復興に尽力した方がいました。黒田辰秋さんもその仕事を認めた林竜人さんです。林さんは我谷村にも近い大聖寺のご出身。元々彫刻家を志していましたが、我谷盆の美しさに心を打たれ、現地調査や同士を糾合し、復興の原動力となりました。当時、ご自身の号を吾太と名乗るほど我谷木工を自認する作家として活躍しました。その後、我谷盆や鉢のみならず、膳・卓・櫃など力強い作品の数々を制作されました。大変残念なことに林竜人さんは平成 3 年に 58 歳という若さでお亡くなりになりましたが、今でも我谷木器を伝承させた作家として多くの方に尊敬され続けています。

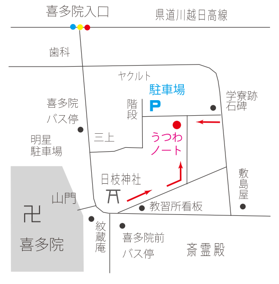
「そろそろ時代に残る仕事も考えていきたい」。佃さんの工房にお訪ねした際におっしゃった言葉です。その時に見せて頂いたのが、林竜人さんの古い作品写真でした。どれも堂々した姿で、今の時代にない力強さに感銘した記憶があります。それは佃さんにとって参考資料であると同時に、木工作家として時代を築いた林さんへの憧れでもあったのではないでしょうか。

本展では、現在金沢市にお住まいの林さんのご子息のご厚意により、作品を 15 点お預かりすることが出来ました。佃さんの木工のお仕事と併せて、林竜人さんの作品を特別展示（非売）いたします。この貴重な機会にご高覧いただければ幸いです。

店主

佃 眞吾 プロフィール

1967年　滋賀県長浜市生まれ
1990年　京都にて家具職人として働く
1992年　職人の傍ら「黒田乾吉木工塾」に通い木漆一貫仕事を学ぶ
1995年　京都 井口木工所にて家具・指物職人として働く
2004年　京都市梅ケ畑にて独立
2015年　現在、同地にて制作。国画会工芸部会員



電車：川越駅(東武東上線・JR)より徒歩25分
　　　本川越駅(西武新宿線)より徒歩20分
バス：駅東口3番乗場 [小江戸名所めぐり] 〜 [喜多院前]
　　　駅西口2番乗場 [小江戸巡回バス] 〜 [喜多院]
車　：ギャラリー専用の新駐車場は北側(5〜8番)

ギャラリー うつわノート
埼玉県川越市小仙波町1-7-6
TEL 049-298-8715　MAIL utsuwanote@gmail.com

我谷煙草盆　江戸後期〜明治期（佃眞吾 所蔵品）
幅 268mm　奥行 168mm　高さ 82mm
会期中この盆など4点の我谷盆をご覧頂けます。

十二角盆　幅483㍉　奥行483㍉　高さ85㍉
会期中店内にてご覧頂けます（非売品）

林竜人 経歴
昭和七年生れ　平成三年没
石川県大聖寺出身

わがた木器の伝承

加賀の国の
雪深い谷間を流るる川沿いに
四百年の昔　人が住み
我谷村がはじまった
生活の中に生れ来た
栗の木つくりの鉢皿が
いつしか町びとの暮らしの
中にも愛され　村びとは
永い冬を作りつづけたが
その伝えは文明の流れに消え
村も水底となった
力強く生き抜いた
器に残るノミのあとは
見る人の心を打つ
今はなき村びとの心を心にうけ
新たな木器のかずかずを
今日の暮らしに仕えんと
ここに作りつづける

林竜人
昭和四十年代の個展に寄せた言葉

「我谷盆の復興は林君の業績」や「大聖寺出身の林君はもともと彫刻家を志して既に行動美術の会友で造形美術家でもある」と黒田辰秋に紹介された人物で、後に金沢に移住し、吾太・竜大などの号がある。我谷盆と黒田辰秋の影響を受け、各種展覧会に栗材の作品を出品した。

石川県立博物館 紀要より抜粋
（二〇〇五年３月号）

林竜人君の作るような木工を心がける工人は少ない。

林君は好人で栗のような堅い材を彫って盆を作り、茶櫃を作り、食卓まで作り、その激しい仕事振りそのものが、また林君自身を鍛え上げてきたようにさえ見える。

作風の強さと新鮮さとはそのために生まれた貴重な特色だと思う。

浜田庄司　昭和四十年代
富山県民会館の個展に寄せた言葉（抜粋）